

愛知県感染症情報

2009年27週(7月1週6/29~7/5)

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619(企画情報部)

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

今週の内容

トピックス

新型インフルエンザ(A/H1N1)

ヘルパンギーナ

定点医療機関コメント

ヘルパンギーナ、水痘、マイコプラズマ、
感染性胃腸炎 等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(19)、細菌性赤痢(1)、腸管出血性大腸菌感染症(4)、パラチフス(1)、E型肝炎(1)、レジオネラ症(2)、急性脳炎(1)、後天性免疫不全症候群(3)、梅毒(5)、風しん(1)、新型インフルエンザ(H1N1)(103)

名古屋市感染症情報(6月後半)

WHO 疫学週報抄訳

2009年6月19日(84巻25号)

新型インフルA(H1N1);世界の疫学的状況

ポリオ;08年、09年各国届出数

2009年6月26日(84巻26号)

新型インフルA(H1N1);WHO公衆衛生活動ガイダンス

ハンセン病;多剤耐性らい菌の状況

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

水痘;豊川保健所注意報レベル

流行性耳下腺炎;津島、岡崎市保健所注意報レベル

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

トピックス

新型インフルエンザ(A/H1N1) (表、図1)

7月8日現在の国内発生累積報告数(検疫対象者での発生例15人除く)は1,998人、7月9日現在の愛知県の累積報告数は228人です。6月29日WHO発表の世界の累計確定数は94,512人(135か国)です。

表 新型インフルエンザ(A/H1N1)患者数(国内発生分、愛知県・全国)

年齢階級	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	総数
愛知県の報告数 (7月9日現在)	20	139	42	8	9	9	1	228
総数に占める割合	8.8%	61.0%	18.4%	3.5%	3.9%	3.9%	0.4%	100%
全国の報告数 (7月8日現在)	336	972	323	161	110	73	23	1,998
総数に占める割合	16.8%	48.6%	16.2%	8.1%	5.5%	3.7%	1.2%	100%

【参考ページ】

2008/09シーズンインフルエンザウイルス分離・検出状況
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infburri08_09.html
「新型インフルエンザ」ウイルス学的検体採取について(5月12日更新)

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/new_inf.html

愛知県の新型インフルエンザA/H1N1発生状況

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/new_inf2009_3.html

ヘルパンギーナ(図2)

27週の定点当たり報告数は2.15人、前週比1.4倍(273人 391人)です。

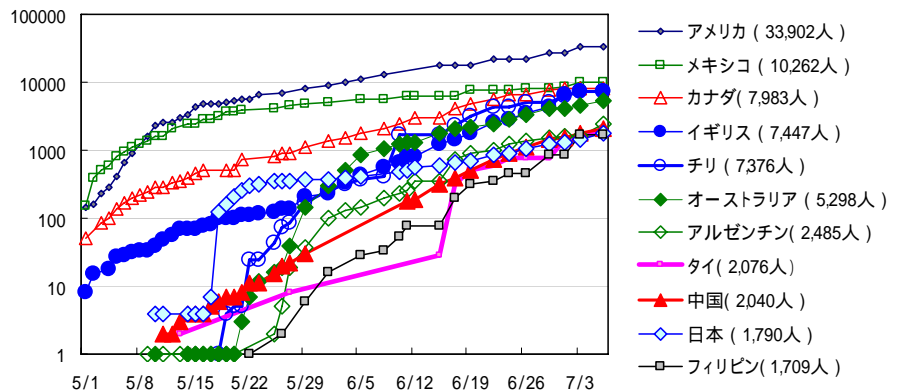
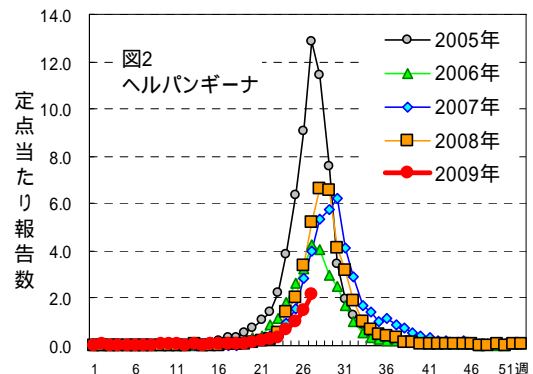


図1 世界の累積確定数推移(WHO、7月6日発表分の確定数の多い11か国、Y軸は対数目盛)



定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

カンピロバクター腸炎 1歳女、10歳女
伝染性紅斑がありました。2歳と5歳の兄弟例。
【一宮市 あさのこどもクリニック】
アデノウイルス感染様の女児数名
【一宮市 後藤小児科医院】
マイコプラズマ感染症 2名
【一宮市 ささい小児科】
病原性大腸菌O18 3歳男
マイコプラズマ感染症 7名
【一宮市 城後小児科】

ヘルパンギーナ増加しています。
他目立つもの少なく落ち着いています。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、水痘が目立ちますが、例年に比べ極めて落ち着いています。
【岩倉市 なかよしこどもクリニック】
46歳男 病原大腸菌（O86a）検出
【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

ヘルパンギーナ、手足口病少し増えました。
その他、流行性耳下腺炎、伝染性紅斑等。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
溶連菌感染症が多く、アデノウイルス感染症、ヘルパンギーナもみられます。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
インフルエンザなし。
水痘、手足口病続発中。
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
ヘルパンギーナが目立ちます。
【小牧市 志水こどもクリニック】
感染性胃腸炎が多いようです。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

56歳男 百日咳
15歳女 病原性大腸菌 O1(+)VT(-)
9歳男 病原性大腸菌 O125(+)VT(-)
17歳男 カンピロバクター(+)
【半田市 医療法人林医院】
アデノウイルス感染症 3名(3歳、3歳、4歳)
流行性耳下腺炎の患者がちらほら続いています。
【東海市 もしもしこどもクリニック】
りんご病のように顔、四肢などに発疹が出る症例が多いです。
潜伏期が3~4日くらいのようなので別ウイルスによるものなのでしょうか。
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

マイコプラズマ 2名
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
病原性大腸菌O1(+) 3歳女
インフルエンザは0です。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
2歳男 病原性大腸菌O1 VT(-)
その他、特記すべきことありません。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
10歳男 病原性大腸菌O1(+)VT(-)
4か月男、3歳女 病原性大腸菌O18(+)VT(-)
【岡崎市 にいのみ小児科】

5歳女 病原大腸菌O1
6歳女 病原大腸菌O1
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎 目立ちます。
【碧南市 永井小児科クリニック】
マイコ気管支炎 4歳 1名
【刈谷市 田和小児科医院】
水痘が少し多めです。
【三好町 三好町民病院】
病原性大腸菌 6歳男O157 VT(-)
2歳男 病原性大腸菌 O18 VT(-)
サルモネラO7 5歳男
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

9歳男、11歳男 カンピロバクター腸炎
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
3歳男、3歳女 マイコプラズマ肺炎
7歳女 伝染性単核症
4歳男 アデノ扁桃炎
【豊橋市 医療法人野村小児科】

インフルエンザB型 1名 24歳男
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】
A(+)です。
【豊川市 豊川市民病院】
E.coli O126 3歳男
【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2009年7月8日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki_jun080512.pdf

結核（二類感染症）

報告保健所	2009年27週報告数			2009年累計(1～27週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	5		3	412	110	71
豊田市				52	15	9
豊橋市				36	8	2
岡崎市				22	9	3
一宮	2			66	22	8
瀬戸	5		1	77	25	13
半田	3		3	28	7	5
春日井				49	18	9
豊川	1	1		28	12	5
津島				45	8	6
西尾				17	6	3
江南	3		1	55	12	10
新城				6	2	1
知多				42	14	7
師勝				25	12	
衣浦東部				65	21	15
合計	19	1	8	1,025	301	167

細菌性赤痢（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	推定感染地域
1	知多	8歳	女	6/28	6/29	7/2	国内

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	豊田市	7歳	女	6/30	6/30	7/4	O157、VT2(+)
2	岡崎市	13歳	女	6/26	6/27	6/30	O157、VT1(+)/VT2(+)
3	西尾	13歳	男	6/28	6/30	7/3	O157、VT2(+)
4	衣浦東部	11歳	女	6/27	6/29	7/3	O103、VT1(+)

パラチフス（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	推定感染地域
1	豊田市	29歳	女	6/19	6/22	6/29	インド

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

E型肝炎（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	豊川	71歳	男	国内

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	58歳	男	肺炎型	国内
2	豊川	61歳	男	肺炎型	国内

急性脳炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病原体	推定感染地域
1	豊橋市	3歳	男	エコーウイルス11型	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	76歳	男	AIDS	性的接触	タイ
2	名古屋市	59歳	男	AIDS	性的接触	国内
3	豊橋市	35歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	35歳	男	早期顕症	性的接触	国内
2	名古屋市	34歳	女	早期顕症	不明	国内
3	名古屋市	46歳	女	無症候	性的接触	国内
4	半田	66歳	男	晚期顕症	性的接触	国内
5	新城	16歳	女	早期顕症	不明	国内

風しん（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	江南	3歳	男	有	国内

新型インフルエンザ等感染症

症例定義(5月22日再改定) <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/syourei teigi090522.pdf>

新型インフルエンザ(H1N1) 27週報告分103人、累計228人

番号	報告保健所	年齢層	性別	推定感染地域	確認日
1	名古屋市	10歳代	女	グアテマラ	6月29日
2	名古屋市	10歳代	男	国内	6月29日
3	名古屋市	10歳代	男	国内	6月29日
4	名古屋市	9歳	女	国内	6月29日
5	名古屋市	10歳代	女	国内	6月29日
6	名古屋市	10歳代	男	国内	6月29日
7	名古屋市	10歳代	女	国内	6月29日
8	名古屋市	10歳代	女	国内	6月29日
9	名古屋市	10歳代	男	国内	6月29日
10	名古屋市	10歳代	男	国内	6月29日
11	名古屋市	10歳代	女	国内	6月29日
12	名古屋市	10歳代	女	国内	6月29日
13	名古屋市	10歳代	男	国内	6月29日
14	名古屋市	10歳代	女	国内	6月30日
15	名古屋市	10歳代	男	国内	6月30日
16	名古屋市	10歳代	女	国内	6月30日
17	名古屋市	10歳代	女	国内	6月30日
18	名古屋市	20歳代	女	国内	6月30日
19	名古屋市	20歳代	男	国内	6月30日
20	名古屋市	30歳代	女	国内	7月1日
21	名古屋市	20歳代	男	国内	7月1日
22	名古屋市	20歳代	男	国内	7月1日
23	名古屋市	10歳代	男	国内	7月1日
24	名古屋市	40歳代	女	国内	7月1日
25	名古屋市	30歳代	女	国内	7月1日
26	名古屋市	4歳	女	国内	7月1日
27	名古屋市	10歳代	男	国内	7月2日
28	名古屋市	40歳代	女	国内	7月2日
29	名古屋市	20歳代	女	国内	7月2日
30	名古屋市	10歳代	男	国内	7月2日
31	名古屋市	10歳代	女	国内	7月2日
32	名古屋市	50歳代	男	国内	7月2日
33	名古屋市	10歳代	女	国内	7月2日
34	名古屋市	10歳代	女	国内	7月2日
35	名古屋市	10歳代	男	国内	7月2日
36	名古屋市	10歳代	女	タイ	7月3日
37	名古屋市	8歳	女	国内	7月3日
38	名古屋市	10歳代	男	国内	7月3日
39	名古屋市	10歳代	男	国内	7月3日
40	名古屋市	40歳代	女	国内	7月3日
41	名古屋市	0歳	男	国内	7月3日
42	名古屋市	2歳	男	国内	7月4日
43	名古屋市	3歳	女	国内	7月4日
44	名古屋市	7歳	女	国内	7月4日
45	名古屋市	5歳	男	国内	7月4日
46	名古屋市	10歳代	女	国内	7月5日
47	名古屋市	10歳代	女	国内	7月5日
48	名古屋市	40歳代	女	ハワイ	7月5日

番号	報告保健所	年齢層	性別	推定感染地域	確認日
49	豊田市	10歳代	女	国内	6月29日
50	豊田市	4歳	男	カナダ	6月30日
51	豊田市	10歳代	男	国内	7月3日
52	豊橋市	10歳代	女	ハワイ	6月30日
53	豊橋市	10歳代	男	国内	7月3日
54	豊橋市	10歳代	男	国内	7月4日
55	岡崎市	10歳代	女	国内	6月29日
56	岡崎市	10歳代	男	国内	6月30日
57	岡崎市	10歳代	男	国内	6月30日
58	岡崎市	10歳代	男	国内	6月30日
59	岡崎市	10歳代	女	国内	6月30日
60	岡崎市	10歳代	女	国内	7月1日
61	岡崎市	10歳代	女	国内	7月1日
62	岡崎市	40歳代	男	国内	7月1日
63	岡崎市	10歳代	女	カナダ	7月3日
64	一宮	20歳代	女	国内	6月30日
65	一宮	10歳代	男	国内	7月5日
66	瀬戸	10歳代	男	国内	6月29日
67	瀬戸	10歳代	男	国内	6月29日
68	瀬戸	10歳代	男	国内	6月30日
69	瀬戸	10歳代	女	国内	7月1日
70	瀬戸	20歳代	男	国内	7月1日
71	瀬戸	10歳代	女	国内	7月4日
72	半田	10歳代	男	国内	7月1日
73	春日井	30歳代	男	国内	6月29日
74	春日井	10歳代	女	国内	7月1日
75	春日井	6歳	女	国内	7月1日
76	春日井	10歳代	女	国内	7月1日
77	春日井	10歳代	男	国内	7月2日
78	春日井	10歳代	女	国内	7月2日
79	春日井	10歳代	女	国内	7月2日
80	春日井	20歳代	女	国内	7月2日
81	春日井	10歳代	女	国内	7月3日
82	春日井	10歳代	男	国内	7月5日
83	春日井	10歳代	女	国内	7月5日
84	春日井	10歳代	女	国内	7月2日
85	豊川	10歳代	女	カナダ	6月30日
86	豊川	20歳代	男	国内	7月3日
87	豊川	10歳代	男	国内	7月4日
88	豊川	20歳代	男	国内	7月5日
89	津島	10歳代	男	国内	6月30日
90	津島	10歳代	男	国内	6月30日
91	津島	10歳代	男	国内	6月30日
92	西尾	40歳代	女	国内	7月1日
93	知多	10歳代	男	国内	6月30日
94	知多	20歳代	男	国内	6月30日
95	知多	20歳代	男	国内	7月3日
96	知多	50歳代	女	カナダ	7月4日
97	知多	10歳代	女	国内	7月5日
98	知多	10歳代	女	国内	7月5日
99	師勝	10歳代	男	国内	7月2日
100	衣浦東部	10歳代	女	国内	6月30日
101	衣浦東部	20歳代	男	国内	7月1日
102	衣浦東部	20歳代	男	国内	7月2日
103	衣浦東部	50歳代	女	国内	7月3日

23週報告 3人、24週報告 3人、25週報告 27人、26週報告 67人、28週報告 25人

梅雨明け間近の曇り空、南ベトナムのサイゴンを思い出すような高温多湿の毎日です(土地の人はホーチミン市と言わず、「サイゴン」です)。雨期になると毎日土砂降り道は川になり、雲が切れると熱帯の太陽が照って蚊が大発生、マラリアの巣窟でした。ところでいつも貴重な情報ありがとうございます。6月後半のまとめをお送りします。

名鉄病院福田先生からはヘルパンギーナ、溶連菌感染症、アデノウイルス感染症が目立つが感染症は全体に少なく、落ち着いている。ロタウイルス感染症はほとんどみとめなくなったが、非ロタのウイルス性胃腸炎やサルモネラ、カンピロバクター、エルシニアなどの細菌性腸炎が増加傾向で、入院は上記感染の重症例とマイコプラズマによる気管支炎・肺炎が主体、第二日赤岩佐先生からは特に目立つ感染症なし、三菱病院入山先生からは外来ではA群溶連菌咽頭炎3名、感染性胃腸炎4名と特に目立つ傾向はなく、入院では気管支炎～気管支肺炎4名、感染性胃腸炎1名(病原性大腸菌O1、咽頭炎と脱水合併で入院)、咽頭炎の入院2名、中京病院柴田先生からは外来では水痘が少しと溶連菌感染症少しあり、大同病院水野先生からは外来は比較的落ち着いていてRSウイルス感染症はまだあり(肺炎による入院が続いている)、ヘルパンギーナなどが散見されるようになり、インフルエンザA陽性者がいたが新型ではなかった、発熱+頭痛が多く夏カゼの特徴で、入院ではマイコプラズマ肺炎が多く、なぜか川崎病の入院が連続、川崎病にも流行があるような印象あり、とのお手紙でした。有難うございました。

2009年6月19日(84巻25号) <http://www.who.int/wer/2009/wer8425/en/index.html>

新型インフルエンザA(H1N1)の人感染。09年6月の世界の疫学的状況。

6月11日WHOは新型インフルエンザA(H1N1)のパンデミック警告をフェーズ5から6に強化。フェーズ6警告はWHO地域の2地域以上で最少1カ国において地域単位の人～人感染が確認された時発令される。本報は6月11日時点の世界の疫学的状況のまとめである。

- (1) 地理的拡散と伝播動態:6月11日時点でWHOへの報告数は確認例28,119例(死亡144)。WHO地域の5地域、74カ国で発生(世界地図あり)しているが90%は南北アメリカで、その他欧州各国、日本・中国・オーストラリアを含む西太平洋地域から報告され、アフリカ地域からは報告されていない(地域別報告数一覧表あり)。国際旅行が地理的拡散を助長、都市部が中心となっていて、最初の欧州地域の発生は発病の前の週のメキシコや米国への旅行に続く例であったが6月1日以降国内感染が増加している。メキシコ以外の多くの国で確認例数増加、国内で地域差が大きく、学校関連発生が目立ち、確認例との接触が明らかな例が多い。
- (2) 基本的な患者複製数(basic reproduction number)の試算:1918年のインフルエンザパンデミックで2~3、今回のA(H1N1)では流行早期で1.2、神戸の発生で2.3であり、この高さは閉鎖集団内での密接接触によると思われる。
- (3) 年齢、性別分布:現在のところ全ての発生国で大多数は思春期、青年成人。男女差なし。流行早期の例は北半球の春休みにメキシコか米合衆国に旅行に出かけた学生。チリ、欧州、日本、ベトナム、メキシコからWHOへの報告では報告例の25%が0~9歳、36%が10歳代、17%が20歳代、9%が30歳代、7%が40歳代、5%が50歳以上であり、カナダでは16.5%が9歳以下、10歳代と20歳代が57.8%、65歳以上が0.7%、チリでは中央値13歳(分布1~65歳)、日本では約80%が10歳代、フィリピンでは大半が5~24歳、英国では中央値12歳、平均20歳、分布0~73歳であった。5月21日時点で欧州地域の報告例年齢中央値24

歳、分布 0～69 歳、西太平洋地域の中央値は 23 歳であった。現時点で若年成人層に多発している理由は不明である。

- (4) 世界の罹患・死亡率：重症・死亡例もあるが全体として軽症。神戸の発生では 5 月 25 日時点での報告例 49 例で回復は早く、有熱日数は 1～8 日(中央値 3 日)であった。a. 入院例：米合衆国では確認され入院状況が判明した 399 名中 36 名(9%)が要入院、データのある入院患者 22 名中 4 名(18%)が 5 歳未満、1 例が妊婦、9 例(41%)が他の疾患を有していた。6 月 11 日時点、ニューヨーク市当局の発表では入院 56 例、死亡 16 例を確認、入院例は季節性インフルエンザより若年で約 79%が 50 歳未満、46%が 18 歳未満、20%が 5 歳未満で 65 歳を超えるものは 5%だけであった。カナダ保健省は 5 月 30 日時点で 84 例の入院患者を確認、年齢の中央値 17 歳(分布 1～78 歳)、13 例(15.5%)が集中治療室収容、40 例(47.6%)について基礎疾患有無判明、12 例に肺疾患、慢性心疾患などがあり、妊婦が 1 例入院した。欧州地域では 6 月 8 日時点で 291 例報告、105 例入院オーストリア、ベルギー、フランス、ルーマニアを含む諸国では隔離目的の入院であった。WHO 西太平洋地域では 1,077 報告例のうち 116 例(11%)入院、重症例割合など不詳。b. 同時に罹患していた疾患：喘息、循環器疾患など同時罹患疾患の報告や妊婦の罹患など多数報告されているが正確な調査はいくつかの国で開始されたばかりである。ニューヨーク市の 576 例の入院患者では 80%が少なくとも一つの重症化ないし合併症のリスクファクターをもち、喘息が最多で確定・入院患者の 41%を占めていた。他に妊娠(28%)、2 歳未満小児(12%)、糖尿病(11%)、免疫不全(9%)、循環器疾患(9%)であった。c. 地域単位調査：ニューヨーク市で 5 月 1 日～20 日に住民調査。回答者の 6.9%(分布 3.6～9.4%)がインフルエンザ様疾患に罹患、新型 A(H1N1)か否か不明であるが、広く罹患していた。d. 家族内二次感染：季節性インフルエンザで 5～15%、新型 A(H1N1)で 22～33%。
- (5) 地域保健活動へのインパクト：カナダ、チリ、メキシコ、米合衆国においては日常地域保健サービス業務には今回の発生はほとんど影響していない。
- (6) 新型 A(H1N1)と季節性インフルエンザの同時流行：多くの国で同時流行が見られ、チリでは新型 A(H1N1)が季節性インフルエンザに置き換わっており、5 月末には 90%が、6 月 2 日の週末で 65%が新型ウイルスであった。抗原分析、遺伝子疫学解析からは欧州地域の第 23 週までの分離株 2,548 株のうち 18 株(0.5%)が新型、米合衆国の第 22 週までの分離株 2,663 株のうち 2,071 株(77.8%)が新型であった。

世界のポリオ。09 年 6 月 20 日時点の WHO 報告数

全世界各国の 08 年、09 年の急性弛緩性麻痺(AFP)患者数、15 歳未満小児人口 10 万当り非ポリオ AFP 報告例数、適切な検体採取%、野生株ポリオ患者数の国別一覧表。目立つ国を下記：08 年患者数(野生株確定数) 09 年患者数(野生株確定数)で示すと、ナイジェリア 861(799) 359(288)、インド 559(559) 59(59)、パキスタン 117(117) 17(17)、チャド 37(37) 1(1)、アフガニスタン 31(31) 7(7)、アンゴラ 29(29) 6(6)、スーダン 26(26) 35(35)、ケニア 0 13(13)。

2009 年 6 月 26 日(84 巻 26 号) <http://www.who.int/wer/2009/wer8426/en/index.html>

WHO の対新型インフルエンザ A(H1N1)公衆衛生活動ガイダンス。6 月 17 日発表。

09 年 4 月以降の経験を基に WHO が国・地域あて発生状況別にまとめたガイダンス。これまでのインフルエンザパンデミーは初年度流行が最大であったが今回は翌年の流行も予測され、以下、重要なガイダンスである。

- (1) 全ての国に対する一般的ガイダンス：パンデミー監視：各国はパンデミー期を通じてサーベイランスを維持すること。ウイルスの遺伝的特性、抗原性、抗ウイルス剤感受性などの監視。発生・流行状況や臨床像、合併症監視、最初の 100 例までの詳細な臨床的・疫学的特性を調査、WHO への頻回かつ急速な報告に努める。情報公開。09 年のパンデミーの経験を基に既存の活動計画・履行を改良すること。
- (2) 広範な地域単位の伝播が起っている国に対するガイダンス：サーベイランス。a. サーベイランスで追求すべきは)パンデミックウイルスによる患者数、死亡数の増減。)保健システムの機能、)ウイルスの変化。b. パンデミー期が続いている間、ウイルス材料採取は必ずしも

全例に実施になくてもよいが、重要な情報であり、症例を選んで実施すること。 制御手段 (control measures) : 自宅とか病院などでの適切な治療、医療システムの機能維持、学級閉鎖とか集会の中止・延期は社会的影響を考慮した上でケースバイケースで履行する。

- (3) パンデミー報告のない国に対するガイダンス： サーベイランス： a . 各国は自国のサーベイランス網を確認すること。検査については WHO が支援。 b . 学校、医療施設などの閉鎖集団を重点にする。 c . 空港における出入国者のスクリーニングと接触者の追跡が考えられるが必要な資源は膨大であり、無症状感染者が発見できないなど、感染伝播が拡大につれて利点は減少、問題が多い。 制御手段：保健担当部門による呼吸器疾患増加状況の把握、重症例に対する適切な治療が実施されているか確認、ワーカーの教育・訓練が重要である。WHO は国境閉鎖や旅行制限は勧告していない。
- (4) 過渡期の国に対するガイダンス： サーベイランス： 国際保健規則(IHR05)に従い WHO に検査室確定例を報告。最初の(出来るだけ多く)100 例に関する疫学的、臨床的、ウイルス学的情報収集、重症度の情報収集、接触者追跡など高度のサーベイランス。 制御手段：パンデミー発生国に準ずる。抗ウイルス剤の予防内服は一般的ではないが備蓄すること。

ハンセン病。多剤耐性らい菌。

世界的調査網確立のため 06 年 11 月インド・アゴラ、08 年 10 月ベトナム・ハノイで専門家国際会議開催。WHO 東南アジア地域事務局がガイドライン発表。本報はコロンビア(06~08 年)、インドネシア(00~05 年)、ミャンマー(05~07 年)の状況である。多菌型(MB)らいで再発例、Dapsone、Ofloxacin、Rifampicin のうち 2 剤以上に耐性を示す例が定点医療機関で調査報告された。定点はミャンマーはヤンゴン総合病院皮膚科(東京・国立感染研支援)、コロンビアは熱帯病病院(米コロラド大学支援)、インドネシアは北スラウエシ・メナドの県立らい結核計画サービス(東京・国立感染研支援)。MB で再発例はコロンビア 28 例、インドネシア 21 例、ミャンマー 20 例。年齢分布はコロンビア 45~59 歳群最多、インドネシアは 15~29 歳群が多いが 30~59 歳群も多く、ミャンマーは 15~29 歳群が多く、男女比は 3 国とも男性が多い。DNA 解析で Dapsone 耐性菌はコロンビアで 4 例、インドネシア 1 例、ミャンマー 3 例、Ofloxacin 耐性はインドネシア未実施、コロンビアとミャンマーではゼロ、Rifampicin 耐性は 3 国とも 2 例ずつであった(一覧表あり)。

84 巻 1 ~ 26 号国別、事項別索引。

愛知県感染症情報

2009年27週(2009年6月29日～2009年7月5日)

愛知県衛生研究所

		定点数																							
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	RSウイルス感染症	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフル エンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	
愛知県 (名古屋市を含む)		195	182	35	52	17	4	19	69	217	576	225	60	19	146	8	391	160	0	8	0	0	4	0	
総数 (名古屋市を除く)		125	112	24	37	12	4	16	49	140	401	180	46	16	114	5	298	146	0	6	0	0	4	0	
名古屋	名古屋市	70	70	11	15	5		3	20	77	175	45	14	3	32	3	93	14		2					
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	1	4	9	22	23	10	2	1	5		11	10		1			1		
海部津島	津島	7	7	2	2	1			1	11	77	5	5	1	7		4	23							
尾張中部	師勝	4	4	1	1					8	4				1		1	2							
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1		2	6	13	22	9	5	2	15		23	3					3		
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	1	1	10	13	39	21	12	1	8	2	53	5		1					
	江南	6	6	1	2				1	21	35	20	5	1	11		22	7							
知多半島	半田	6	6	1	2	1			2	3	20	3		3	10	2	18	9							
	知多	7	7	2	2			1	2	8	36	3	1	3	4	1	7	8							
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		1		9	13	13	3		8		13	24							
	衣浦東部	13	13	2	4	1	1	2	3	9	49	30	7	1	17		56	29		2					
	西尾	5	5	1	2	1				7	11	6	1		6		24	7							
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1	1		3	23	16	3	1	4		24	12		2						
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		1	8	7	26	7	2		11		20	1							
	豊川	9	8	1	2	1		4	7	6	23	36		2	7		20	5							
東三河北部	新城	2	2			1						1					2	1							

